

岡山県

# せいきよう連 会報

2016年

新年号

加賀春



## CONTENTS

- 1 会長理事
- 2 岡山県知事
- 3 岡山県議会議長
- 4~5 県議会党派代表のみなさま
- 6~8 各界の方々
- 9~11 副知事、議員、行政担当部署と懇談し  
情報提供や意見交換を行いました。
- 12 協同組合間の連携を進めました。
- 13~14 会員生協の組合員、役員・職員が  
交流し、学びました。
- 15~16 岡山県消団連、NPO消費者ネットおかやまとともに
- 17~19 会員生協トピックス
- 20~22 会員生協紹介
- 23 岡山県生協連紹介

# 新年のごあいさつ

すべての県民が明るい笑顔で暮らす  
「生き生き岡山」を目指して



岡山県生活協同組合連合会  
会長理事  
**近藤 清志**

新年あけましておめでとうございます。  
行政並びに友誼団体のみなさまにおかれましては、  
日頃から当生協連に対しまして、ご支援、ご指導を  
賜り、心からお礼を申し上げます。

会員生協のみなさまには、暮らしと健康、いのち  
を守り、地域社会の発展のためにご奮闘されていま  
すことに心より敬意を表します。

東日本大震災から5年近くになりました。昨年は  
福島県へ復興の状況や現在の課題について研修にお  
伺いしました。

改めて過酷な原発事故の発生は、未だに暮らしに  
大きいのしかかり、生活再建にはほど遠く、先行きの  
見えない状況が続いています。行き場のない除染  
された土などの廃棄物は増え続け、仮設住宅で大変  
不自由な生活を強いられている方はいまだに2万人  
を超え、健康問題が大きな課題となっています。農  
産品やお米の全量検査など大変な労力をかけ風評被  
害に対応していました。

未だに終わらない現実を見て改めて風化させるこ  
となく、支援活動が必要であることを感じた研修と  
なりました。

私たちの暮らしをめぐって、景気回復の動きがあ  
るものの、消費税増税、円安による原材料の高騰に  
よる公共料金や食料品の値上げが、家計を直撃して  
います。一方で貧困と格差の拡大は拡がりを見せ、  
子どもへの連鎖となって表れており、社会全体の問

題となっています。

各市町村では第6期介護保険事業計画がスター  
トし、2025年までに日常生活圏域ごとに、医療、  
介護、介護予防、住まい、生活支援が包括的に確  
保される地域包括ケアの構築を目指しています。

私たち生協の事業や活動は、これらの項目すべ  
てに関わっています。医療、介護はもとより購買  
事業、夕食宅配、移動販売車、健康づくり、サロ  
ンや食事会、また認知症サポーターの養成や地域  
での見守りなど、現在も大きな役割を担い、地域  
での暮らしに貢献しています。

引き続き行政や他団体と連携して、安心して暮  
らすことが出来る社会の実現にむけて、役割を発  
揮していきましょう。

消費者行政の分野では、消費者ネットおかやま  
が12月8日に適格消費者団体の認定を受けるこ  
とが出来ました。私たちは消費者ネットおかやま  
の支援を通じて「消費者行政の充実、強化」の課  
題を進めてきましたが、認定を受けたことで、さ  
らに役割を発揮することが期待されます。また、  
見守り組織の構築等を進める消費者安全法の改正  
が行われました。急激な少子高齢化社会の進展、  
単身高齢者の増加など、安心安全を支えるネット  
ワークの構築は不可欠であり、生協組織もその一  
翼を担うことが求められています。

行政や地域諸団体のみなさまには、今年も変わ  
りませずご指導、ご支援を賜りますことをお願い  
致します。

最後になりますが、皆様にとりまして、この1  
年がすばらしい年となりますことを祈念致しま  
す。



岡山県知事 **伊原木 隆太**

新年あけましておめでとうございます。  
年頭に当たり、県民の皆様のご健勝とご多幸  
を心からお祈り申し上げます。

昨年11月に開催した第1回おかやまマラソ  
ンには、全国各地から1万4千人を超えるラン  
ナーに参加いただきました。大会ボランティア  
をはじめ、熱い声援を送っていただいた方々、  
ご協賛ご支援いただいた企業、団体が「走る・  
みる・支える」とさまざまな形で一体となり、  
地域に元気と感動をもたらす大会となりました。  
ご協力いただいたすべての皆様に心からお礼申  
し上げます。

昨年も、私が目指す「生き生き岡山」の実現  
に向け、本県の未来に好循環をもたらす「教育  
県岡山の復活」「地域を支える産業の振興」など  
重点戦略を中心に施策を着実に推進してまいり  
ました。

教育県岡山の復活については、県警察本部に  
設置した学校警察連絡室などの取り組みにより、  
非行率が前年に比べ大幅に減少しました。一方、  
学力の向上については、全国調査の結果から、  
小学校は全国の平均正答率との差が縮小するな  
ど一定の成果は見られたものの、中学校は依然  
として厳しい状態にあります。

また、産業の振興については、本県へ本社機  
能を移転した企業が、優遇税制などを受けられ  
る国の支援制度の全国初の認定を受けるなど、

この3年間で誘致企業の投資額は1,100億円  
を超え、2,000名近くの雇用を創出すること  
ができました。

今年は、晴れの国おかやま生き生きプランに  
掲げる行動計画の最終年であると同時に、人口  
減少問題を克服し、本県の持続的な発展を目指  
す「おかやま創生」の取り組みを本格的に展開  
する年となります。教育と産業という2つの最  
重要課題については、引き続き、プランに基づ  
き着実に進め、喫緊の課題である人口減少問題  
については、「おかやま創生総合戦略」に盛り込  
んだ本県の強みを生かした特色ある施策を県民  
一丸となって取り組んでまいります。

春には、JRグループとタイアップしてデス  
ティネーションキャンペーンを実施します。全  
国から多くの観光客に訪れていただける絶好の  
チャンスであり、県を挙げて温かいおもてなし  
の気運を醸成し、岡山の魅力を全国に発信して  
まいります。また、5月には倉敷市において、  
G7教育大臣会合が開催されます。教育再生に  
向けた気運を高めるとともに、本県の豊かな教  
育・歴史・文化を幅広く国内外に発信してまい  
ります。

引き続き、すべての県民が明るい笑顔で暮ら  
す「生き生き岡山」の実現に向け、これまで蒔  
いた種が花を咲かせ、実を結ぶよう全力で取り  
組んでまいりますので、皆様には一層のご理解  
とご支援を賜りますよう、よろしく願いいた  
します。

# 新年のごあいさつ

## 岡山県議会議長・会派代表のみなさま



岡山県議会議長

小野 泰弘

平成28年の年頭に当たり、謹んでご挨拶を申し上げます。

岡山県生活協同組合連合会の皆様には、新春を清々しくお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

皆様には、日頃から、県民生活の安定と生活文化の向上に多大なご尽力を賜っているところであり、心より敬意と感謝の意を表します。

私ども岡山県議会は、住民に身近な県議会を目指し、公明正大な議会運営にあっております。また、行政に対するチェック機能を果たすとともに、県政における最終的な意思決定機関としての役割を担い、県民福祉の向上と県勢の発展のため邁進しているところです。

昨年は、日本各地で「地方創生」に向けた取り組みが始まりました。本県においても、昨年10月に策定の「おかやま創生総合戦略」により、岡山県が持続的に発展していくための道筋が示されたところです。

このような中、昨年11月に開催された「第1回おかやまマラソン」では、県民の一体感に触れ、地域の活力を感じることができました。

また、昨年は、海外からの観光客が大きく増えた年でもありました。昨夏、観光プロモーション等のために、タイ、香港、台湾を訪問した中で、本県の魅力をPRしましたが、現地での関心の高さを実感したと

ころであります。

今年は、大型観光イベントのデスティネーションキャンペーンや伊勢志摩サミット教育大臣会合、全国高等学校総合体育大会等、全国に岡山の良さを発信する大きなイベントが続きます。このような好機を生かしながら、本県の持つ特徴や優位性を活用し、魅力あふれる「おかやまの創生」につなげていくことが重要であります。

昨年の公職選挙法の改正により、選挙権年齢が70年ぶりに引き下げられ、いよいよ、18歳以上の若者が選挙に参加できるようになります。投票率の低下、若者の政治離れが進む中、若いうちから主体的に政治に関わることで、自分たちの未来を築いていく気運が高まることを期待するとともに、県議会としても、政策立案機能の向上や積極的な政策提言、広く県民に向けた情報公開等を通して、議会の活性化に取り組んでまいりたいと思います。

私は議員を志したときから、「忠誠心」を信条に、職務にあたってまいりました。郷土岡山のため、県民の皆様のために誠意を尽くす気持ちを忘れず、皆様の立場に立ち、皆様の声を県政に届け、県勢の発展に力を尽くしてまいります。

結びに、新しい年が皆様にとりまして素晴らしい一年となりますよう、併せて、皆様のご健勝とご多幸を心から祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。



自由民主党岡山県議団  
団長

渡辺 英気

新年明けましておめでとうございます。

岡山県生活協同組合連合会の皆様方には、よき初春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、皆様方には「思いやりの心でつなぐ人間らしいゆとりのある暮らしの創造」、「参加・自主・自立で学び成長する多数者組織の実現」、「協同と連帯がはぐくむ組織と地域社会の発展」の三つの理念のもと、地域社会において幅広い活動を展開されていることに、心より感謝申し上げます。

さて、昨春の統一地方選挙の結果、私ども自由民主党岡山県議団は36名の議員で構成する県議会の最大会派として、新たなスタートを切りました。引き続き、直面する県政課題に覚悟を持って向き合い、夢と希望と活力あふれる郷土岡山県づくりに向けて、県政の責任政党としての責務を全うする決意

であります。皆様方のご理解とご協力をお願い申し上げます。

ところで、国、地方を問わず現下の最大の政治課題は、人口減少と東京一極集中の是正に向けた地方創生であります。将来にわたり活力ある社会を維持していくためにも、国、地方、官民が一体となって、地方創生に向けた取り組みを推進していかねばなりません。貴連合会では、一昨年来、地方自治体と結ぶ地域見守り協定の締結に熱心に取り組まれるなど、地域コミュニティの担い手としての役割が大いに期待されています。引き続き、地域の暮らしを支える活動に一層ご尽力賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、貴連合会の益々のご発展と、皆様方のご健勝とご多幸をお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



民主・県民クラブ  
団長

高原 俊彦

新年明けましておめでとうございます。

県民の生活の安定と生活文化の向上に取り組んでいらっしゃる皆様には、心より敬意を表します。また、毎年県議会議員との意見交換の機会を設けていただいていることに改めて感謝申し上げます。

さて、岡山生協連がスタートした1959年に比べ、岡山県における高齢化率は7.5%から28%と三倍以上に増大しています。岡山県が昨年策定した「人口ビジョン」による見通しでは、35年後の県内人口は30万人以上減少し、老年人口も全体の35%にまで上昇するとされており、こうした社会構造の変化に対応した施策の充実が求められています。

「おかやま創生総合戦略」では人口減・

社会減の両面から対策を講じることとしていますが、肝心なのは「いかに平和で暮らしやすい地域を作るか」ということに尽きると思います。

介護保険制度の改正により、要支援1・2の皆さんが市町村の実施する地域支援事業に移行することが決まっていますが、移動困難なお年寄りや障害をお持ちの方を含め、地域での支えあいの仕組みづくりが急がれます。

生協の皆様におかれましては、すでに消費者の意識啓発をはじめ、地域の見守り活動や防災への取り組みなど、地域に根付いた幅広い取り組みを行っていただいております。地域社会の担い手としての期待は高まる一方です。

これからも頼もしい地域社会の一員として、一層ご活躍いただきますようお願い申し上げます。

# 新年のごあいさつ

## 岡山県議会会派代表のみなさま



公明党岡山県議団  
団長  
高橋 英 士

新年明けましておめでとうございます。日頃の皆様の不偏不党の立場からのご活動に敬意を表するとともに、今後のますますのご活躍を心からお祈り申し上げます。

さて政府はアベノミクス第二ステージとして新しい3本の矢、つまり第一の矢「希望を生み出す強い経済」、第二の矢「夢をつむぐ子育て支援」、第三の矢「安心につながる社会保障」の構想を発表しました。これは従来の3本の矢を強化して強い経済を実現するとともに、日本の構造的な課題である少子高齢化や人口減少問題に正面から取り組むものとなっています。具体的にはこれからそのプランが作成・発表されることになっていますが、いずれにしても希望を生み出す強い経済の復活がそのベースになるもので、賃金

上昇による消費の拡大や非正規雇用の正規化などの問題は避けて通れませんし、こうしたことの実現が今日の少子高齢社会や人口減少の問題解決につながり、それが地方の創生・発展になるものと確信します。こうしたことを考えれば皆様が消費者行政から安全対策、環境対策、医療福祉対策など幅広く活動され地域に大きなネットワークをもたれていることは、こうした社会の実現に大きな力を発揮されると期待をするものであります。

我が党も一昨年結党50年を迎え、今次への50年の第一歩を踏み出したところであり、「小さな声を大きく育ててそして実現していく」党として今後も真剣に皆様の声に耳を傾けてまいります。本年もどうぞよろしくご挨拶申し上げます。



日本共産党岡山県議団  
団長  
森 脇 久 紀

新年明けましておめでとうございます。

岡山県生活協同組合連合会の皆様方には、行政にはできないきめ細かな住民サービスの担い手として、暮らしと健康、福祉の向上など様々な分野でご活躍されておられますことに心から敬意を表します。

昨年は安保法制（戦争法）問題をきっかけに政治への関心が一気に高まった年でした。立憲主義、民主主義、平和と人権を踏みしめる政治は許せないと、年配の方から若い人までが連日声を張り上げました。「流行語大賞」トップテンには「アベ政治を許さない」「SEALDs」が選ばれました。「民主主義は止まらない」とのメッセージも大きな話題となりました。

私たちは日本国憲法のもとで暮らして

います。国民主権、平和原則、民主主義、人権保障、地方自治——どれもが「人類の多年にわたる自由獲得の努力の成果」（憲法97条）であって、「侵すことのできない永久の権利」（憲法11条、97条）です。また、憲法は99条で、国務大臣、国会議員に「憲法を尊重し擁護する義務」を課しています。にもかかわらず、政府・与党は「憲法違反！」との国民世論を無視し続けています。

平和と自由・民主主義、国民生活の根幹をなす憲法に対する攻撃が強まっているいま、私たちに求められているのは、憲法の諸原則を「不断の努力によって、保持」（憲法12条）し続けることです。今年は、今の政治を憂う広範な人々と力を合わせ、憲法にもとづく政治を取り戻す年にしたいと思います。



日本生活協同組合連合会  
会 長  
浅 田 克 己

新年明けましておめでとうございます。岡山県生活協同組合連合会の皆さんが、組合員の暮らしを支えるため、日々奮闘されておられることに心より敬意を表します。

組合員の暮らしは、消費税が5%から8%に増税されたことをはじめ、社会保障費の増加、円安による物価の上昇などにより大変厳しい状況が続いています。そして昨年9月には安全保障法制が決定され、10月には環太平洋パートナーシップ（TPP）協定の大筋合意がなされたことなど生活をとりまく状況は一層厳しくなりました。私たち生協は、これまで以上に組合員の暮らしを守る活動と事業を進めていかねばなりません。

そうした厳しい情勢の中ではありましたが、全国の会員生協と組合員の皆さんの力で、昨年6月よりCO・OP商品の刷新をスタートすることができました。この場をお借りし、心より御礼申し上げます。組合員の暮らしが多様化する中、これからも組合員の声を生かしつつ、時代の先を見据えた幅広い商品開発・改善に取り組んでまい

## 新年のご挨拶

りたいと思います。

引き続きご協力を賜りますようお願い申し上げます。

東日本大震災から5年が経とうとしていますが、全国の皆さんからの東日本大震災の復興支援の取り組みは、「忘れない」「続ける」「つながる」を合言葉に、しっかりと継続いただいております。尊い支援活動に心より敬意を表します。

また、貴連合会をはじめ全国の生協の皆さんは、地域見守り協定の締結や災害協定の締結をはじめ、行政の皆さんや地域の団体の方々とのネットワークづくりを着実に進められてこられました。これらの取り組みは、高齢の方や子育て世代の方を一人ぼっちにさせないこと、社会的孤立化を地域の皆さんと一緒に防ぐことにもつながる重要な活動となりつつあります。

これからも「助け合いの組織」として地域社会を支え、地域コミュニティに参加する取り組みを、力を合わせてすすめてまいりたいと思います。

この1年が皆様にとって実り多い年になりますようお願い申し上げます。新春のご挨拶とさせていただきます。

# 新年のごあいさつ

## 協同組合・友誼団体代表のみなさま



岡山県農業協同組合  
中央会会長  
青江 伯夫

岡山県生活協同組合連合会の会員・組合員の皆様におかれましては、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

平素より、JAグループの事業及び農業振興に格別のご理解、ご支援を賜り心より感謝を申し上げます。

さて、昨年、環太平洋連携協定（TPP）をめぐる大筋合意がなされました。政府は「経済再生」を名目にTPP交渉を進めましたが、今回の合意内容は、農業に限らず、地域経済や国民生活に広範囲にわたって大きな影響を及ぼすものです。この合意は、日本の農林水産業の将来にとって、極めて厳しい転換点となったと言わざるをえません。

JAグループ岡山では、昨年12月に「創造的自己改革への挑戦」をスローガンに、第33回岡山県JA大会を開催しまし

新年明けましておめでとうございます。

岡山県生活協同組合連合会の会員・組合員の皆様におかれましては、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

平素より、JAグループの事業及び農業振興に格別のご理解、ご支援を賜り心より感謝を申し上げます。

さて、昨年、環太平洋連携協定（TPP）をめぐる大筋合意がなされました。政府は「経済再生」を名目にTPP交渉を進めましたが、今回の合意内容は、農業に限らず、地域経済や国民生活に広範囲にわたって大きな影響を及ぼすものです。この合意は、日本の農林水産業の将来にとって、極めて厳しい転換点となったと言わざるをえません。

JAグループ岡山では、昨年12月に「創造的自己改革への挑戦」をスローガンに、第33回岡山県JA大会を開催しまし

た。「農業者の所得増大」を最重点の目標に、「農業生産の拡大」「地域の活性化」に全力を尽くし、「持続可能な農業」と「豊かで暮らしやすい地域社会」の実現をめざします。

その中で、「食と農を基軸として地域に根ざした協同組合」としての県民理解を醸成するべく、「笑味ちゃん天気予報」（RSKテレビ月～金曜日、18時50分～19時）の放映を行っています。この番組には、安全安心な農畜産物を消費者に届けている生産者の姿、愛情、情熱を、消費者により身近に感じてほしいという想いが込められています。この番組が、生産者と消費者の架け橋となり、地域の農業とくらしがより良いものになることを切に願っています。

このような活動に取り組みながら、本県の農林水産業の裾野を、これからも皆様と一緒に広げて参る所存です。協同組合運動の発展に向け、生協と私たちJAがさらに連携し頑張っ参りましょう。

最後になりましたが、今年一年が皆様にとりまして最良の年となりますよう、また皆様のご健勝をご祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。

新年明けましておめでとうございます。

岡山県生活協同組合連合会の会員組合及び組合員の皆様におかれましては、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、昨年はTPP協定の大筋合意により日本の多くの農林水産物が関税撤廃となり、我が国の第一次産業に従事する者にとって、不安や不満の声が広がる年となりました。このTPP協定は安心・安全で良質な魚介類を消費者に供給してきた我々にとって大きな懸念材料となっております。

このような中、水産関係団体におきましては、浜の活力

再生、組織・事業基盤の確立、人づくり、漁村活性化に向けたJFグループの役割発揮を運動方針に掲げ、水産業の復活に総力を挙げて取り組んでいるところであります。

また、漁獲量の減少やノリの色落ちが毎年発生するなど、厳しい漁場環境になっておりましたが、我々漁業者が切望した「瀬戸内海環境保全特別措置の一部を改正する法律」が昨年9月に成立し、「豊かで美しい海」の再生に向けて新たなスタートを切りました。

JF岡山漁連といたしましては、海浜・海底清掃など環境保全活動や資源管理に取組み、魚食普及活動などをおし、新鮮で安心・安全な水産物の魅力を消費者に伝えてまいりますので、今年もよろしくお願いたします。

最後になりましたが、本年が皆様にとって明るく希望の持てる年となりますとともに、皆様のご繁栄とご健勝を祈念申し上げ新年のご挨拶といたします。



岡山県森林組合連合会  
代表理事会長  
井手 紘一郎

新年あけましておめでとうございます。

岡山県生活協同組合連合会の会員・組合員の皆様には、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

皆様には、安全で安心な商品・サービスの提供をはじめ、社会貢献や環境保全など様々な分野で活動されておられますことに対し、深く敬意を表する次第であります。

さて、昨年を振り返りますと、TPPの大筋合意により、農林水産業においても「新農政時代」ともいべき新たなステージを迎えたところですが、森林・林業分野においては、木材自給率が31.2%と26年ぶりに30%台に回復したことや、県内では、未利用材を主原料に火力発電を行う木質バイオマス発電が稼働したこと、また、新たな木質構造材として期待されるCLTの生産体制等の整備が進むなど明るい話題がありました。一方、柱材等の製品の需要不振による原木市況が低迷するなど、林家や我々系統にとっては厳しい年でもありました。

林業は、木材を繰返し生産・供給するという営みを通して、森林の持つ

復したことや、県内では、未利用材を主原料に火力発電を行う木質バイオマス発電が稼働したこと、また、新たな木質構造材として期待されるCLTの生産体制等の整備が進むなど明るい話題がありました。一方、柱材等の製品の需要不振による原木市況が低迷するなど、林家や我々系統にとっては厳しい年でもありました。

林業は、木材を繰返し生産・供給するという営みを通して、森林の持つ



(一社) 岡山県労働者福祉協議会  
会長  
石田 一

新年明けましておめでとうございます。

岡山県生協連の皆さまには、輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

平素より、岡山県労福協の活動に多大なご協力とご理解をいただき、厚く感謝を申し上げます。

いま日本は、貧困や格差が拡大し、社会の持続性が問われています。雇用の劣化が加速し、若者・壮年・高齢者に到るまで、現在や将来の生活に不安を抱えています。

とりわけ、次の時代を担う若者の多くが奨学金を借りざるを得ず、社会人としての出発点から数百万円の借金を背負って苦しんでいる事態をこのまま放置するわけにはいきません。社会全体で若者を支えていくため、給付

水 源の涵養や県土の保全などの公益的機能を高度に発揮させ、私たちの環境をより快適に保全するといった重要な役割を果たすとともに、山村の振興にも大きく貢献しています。

林業を振興していくためには、「伐って、使って、植えて、育てる」という森林資源の循環サイクルを構築することが必要であり、森林組合連合会では昨年4月から「皆伐・再造林促進支援事業」を立ち上げました。これにより、再造林が促進されることを期待しているところであります。

皆様の森林・林業へのより一層の御理解・御協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、岡山県生活協同組合連合会の益々の御発展と会員・組合員の皆様の御健勝、御多幸を祈念申し上げ新年の御挨拶といたします。

型奨学金制度の導入・拡充や柔軟な返済制度への改善、教育費負担の軽減の実現に向けて、広範な世論のうねりをつくっていくことが必要です。各職場・地域において現在展開中の署名活動に対して、より一層のご支援・ご協力をよろしくお願申し上げます。岡山県労福協では、「ライフサポートセンター事業」の充実や「ジョブおかやま（無料職業紹介所）」の強化など、今年も多くの課題があります。

「連帯・協同でつくる安心・共生の福祉社会」に向けて、労福協運動の原点をしっかりと継承・発展させながら、職場・地域に共助の輪を広げてまいります。

新年あけましておめでとうございます。

岡山県生活協同組合の皆様には、日頃から県民生活の安定と文化や福祉の向上に向けて御尽力くださって居られます事に対しまして、心より敬意を表します。

私達婦人協議会でも多くの人の協力と努力により、女性の地位は少しずつ向上して参りましたが、今なお克服すべき多くの課題があります。私達は多様化する家庭や家族それぞれの個性を受け入れ、変化するライフステージ

に呼応しながら、一人ひとりが責任を持って行動していきたいと常に話し合い乍ら一歩ずつではありますが、前に進んでおります。

今後、各種団体と連携交流し乍ら、生活者の誰もが常に笑顔で輝いて暮らせる豊かな社会を目指して参ります。

終りになりますが岡山県生活協同組合連合会様の益々の御発展と、皆様方の御健勝を念じ新年のご挨拶とさせていただきます。



(一社) 岡山県婦人協議会  
会長  
土屋 紀子

# 副知事、議員、行政担当部署と懇談し

# 情報提供や意見交換を行いました。

## ●岡山県副知事との懇談【2月9日 副知事室】

岡山県から木幡副知事、岡野課長、吉田総括参事、前田主任の4名に出席頂き、岡山県生協連からは会長、副会長、女性理事の6名が参加しました。県生協連から懇談開催のお礼や昨年の懇談での話にふれて挨拶を行い、その後協定の締結や会員生協の取り組みについて報告しました。副知事から、地域社会づくりの取り組みは幅広い活動が行われていることや市町村との関係づくりについて評価され、生活支援サービスの取り組みに対する重要性や期待について話されました。



最後に県との連携について前向きに検討していくことへの回答があり懇談を終了しました。和やかな雰囲気で行われ、連携等の具体的な回答を頂くことができ、有意義な懇談となりました。



## ●くらし安全安心課との懇談会【2月9日 県庁会議室】

くらし安全安心課から岡野課長、吉田総括参事、前田主任に出席頂き、県生協連から7名が参加して懇談を行いました。

岡野課長から生協に対する期待などにふれての挨拶の後、要望に対しての回答が行われ懇談に入りました。

県としてコーディネーターを配置し福祉関係や市町村との関係づくりを進めていることや見守りの仕組みについて検討していくこと。地域包括ケアの関係でくらし安全安心課も長寿社会課の会議に参加し連携した取り組みができるようにしている。県との連携については早い段階で行うことなど回答されました。



## ●岡山県に要望書を提出【10月15日 県庁くらし安全安心課】

平成27年度の県への要望書を提出しました。今回の要望書は 1. 生協の育成・強化について 2. 消費者行政について 3. 食の安全・食育について 4. 災害対策について 5. 岡山県の発展、地方創生 6. 環境対策について 7. 保健・医療・福祉・介護・少子高齢化対策について 8. 産消提携、地産地消運動について 9. 協同組合との連携。の9項目27の要望内容となっています。くらし安全安心課岡野課長、竹井総括参事に要望書を手渡し、その後内容の補足説明を行いました。



## ●第31回 中四国生協・行政合同会議【9月3日 ホテル日航高知旭ロイヤル】

『地域とともに安全・安心な暮らしをつくるために、今わたしたちができること』をテーマとして中四国生協・行政合同会議が高知県で開催されました。中四国地連議長小泉信司氏より開会挨拶が行われ、開催県挨拶として尾崎知事のメッセージの紹介が行われました。厚生労働省社会・援護局地域福祉課消費生活協同組合業務室長佐藤潤氏から、日常生活圏域ごとに地域包括ケアシステムの構築を進めることが必要となっており、生協が地域の拠点としての役割や時代の要請に応えていかなければならないことにふれて挨拶が行われました。

続いて日本生協連から全国の生協の社会的取組について、高知県農業振興部より環境保全型農業の取組について報告されました。活動報告として ①「広島県消費者基本計画（第2次）について」広島県環境県民局消費生活課 ②「地産知食活動～伝統食レシピブックの発行と活用～」コープやまぐち ③「大学生協の食育の取り組み」高知大学生協同組合。それぞれの特長を生かした取組報告が行われました。分散会(グループ交流)では、「生協と行政と一緒に出来ること」をテーマに意見交換を行い、生協の取り組みを理解してもらえらる場となりました。



## ●第27回 県議会議員のみなさまとの懇談会を開催【11月30日 オルガホール】

11月県議会初日、27回目となる生協連と県議会議員のみなさまとの懇談会を開催しました。県議会から議長はじめ全会派から10名の議員の方々に参加頂き、「地域社会づくりへの参加と地域包括ケアの構築にむけて」をテーマとして懇談を行いました。

【ご出席頂いた県議会議員のみなさま】

- 県議会 議長 小野 泰弘議員
- 自由民主党 青野 高陽議員 小林 孝一郎議員 福島 恭子議員
- 民主・県民クラブ 高原 俊彦議員 高橋 徹議員
- 公明党 高橋 英士議員 山田 総一郎議員
- 日本共産党 森脇 久紀議員 須増 伸子議員



岡山県議会 小野泰弘議長



青野 高陽議員



小林 孝一郎議員



福島 恭子議員



高原 俊彦議員



高橋 徹議員



高橋 英士議員



山田 総一郎議員



森脇 久紀議員



須増 伸子議員

開会にあたり県生協連近藤会長から、懇談のお礼と今回のテーマにふれて挨拶を行い、県議会小野議長から、「生協によって食の安全等賢い消費者が育ったこと、地域包括ケアは喫緊の課題であり、地域全員でささえ合って作る必要があること」など挨拶を頂きました。



続いて参加頂いた議員から自己紹介、生協との係りや期待も含めて挨拶が行われました。

生協の取り組みとして、地産地消や飼料用米の活用、行政との連携、生活支援サービス、災害対策、組合員が進める様々な活動、健康づくり、まちづくり、災害に強いまちづくり、地域、行政と連携した取り組み等紹介しました。

各議員のみなさまから、地域包括ケアの構築にむけた取り組みや地域のネットワークの構築、若い世代の介護に対する経験や理解、県に対しての要望、消費者教育、対応するモデルづくりや民間の活用、棚田保全の取り組み、消費者被害の防止などについて発言され、意見交換を行いました。

最後に平田副会長から、行政と連携して取り組みが進むことへの期待にふれ閉会挨拶を行い終了致しました。

限られた時間ではありましたが、各議員のみなさまとの懇談を通じて生協の取り組みへの理解を頂くことができました。参加頂きました議員のみなさまにお礼申し上げます。



## ●平成27年度 地方消費者グループ・フォーラム開催【12月4日 米子コンベンションセンター】

「誰もがつながりあって安心して住める地域を」をテーマとして地方消費者グループ・フォーラム（中国四国ブロック）が開催されました。

島根県生協連鎌田会長より、山陰地方で初めての開催となり鳥取、島根の共同開催で行うこと、地域の多様な連携をめざし、会議が有意義なものとなるように開会挨拶が行われました。

板東消費者庁長官から、多様な主体が連携、協力していくためには、今回のテーマは重要なキーワードとなること、地域の見守りのネットワークの構築が必要となっていることについて挨拶が行われました。

また、特定商取引法、消費者契約法の見直しが行われていることや、消費者問題では悪質商法、ネットの関係でのトラブルが増加し、年齢が高くなればなるほど消費者被害が増え金額も多く、いかに見守りができるかが大切。消費者基本計画では、どこに住んでいても質の高い相談、救済を受けられる政策目標を設定して取り組みを進めていることなどの報告が行われました。



団体報告として、松江市消費生活相談室より、「消費者教育推進地域協議会・消費者安全確保地域協議会の設置にむけての現状と問題」をテーマとして、高齢者の見守りネットワークを中心に報告が行われ、消費者ネットひろしまから、「消費者被害の未然防止・拡大防止の取り組み」をテーマとして、高齢者見守り研修実施支援や見守りメルマガ配信などの報告が行われました。

### 「助け上手、助けられ上手の「生活者」になるために～地域における協働実践に取り組もう～」をテーマに同志社大学上野谷教授から講演が行われました。



地域生活支援で支える基盤づくりや生活支援のためのシステム形成に向けての実践が始まっている。協働で問題の社会的解決に取り組む必要や、地域を基盤としたソーシャルワークの展開や支える基盤づくりについて話され、滋賀の実践センターの取り組みや子どもの貧困対策などにふれて講演が行われました。

分散会では、上野谷教授の講演を受け、「協力」「共同」「連携」「協働」の視点から、この1年間の体験をもとに分類をしながら、大切なポイントや進めていく上での課題について深めました。

閉会にあたり、鳥取県・消費生活センター村田所長より家族や地域の絆が大切となっており、連携しながらネットワークを築き、家族や地域の絆を取り戻すことについて挨拶が行われました。

終了後は板東消費者庁長官との懇談が行われ、消費者団体から、フォーラムについての感想や今後に向けての要望など伝えました。



## ●消費者団体等との意見交換会 開催【10月23日 岡山地方第2合同庁舎】

中国四国農政局と消費者団体11団体との意見交換会が開催されました。テーマは、「食の安全と消費者の信頼確保に向けて」県生協連、消団連からも参加しました。

中国四国農政局消費安全部伊藤部長より、平成15年から意見交換会を開催。今回は、基本計画の中の日本型食生活や食育の推進、食品安全に対する取り組み、TPPに関する情報提供に関して意見を頂きたいことへの挨拶が行われ、続いて農政局から3つのテーマに基づいて、説明が行われました。

その後の意見交換では、食育の具体的な取り組み、学校給食における米飯の拡大、食育の取り組みの連携、耕作放棄地の問題や中間管理機構の基準、TPPにおける食の安全基準の問題等意見が出され、それに対する見解が述べられました。



# 協同組合間の連携を進めました。

## ●岡山県協同組合交流会2015を開催【7月9日 オルガホール】

協同組合交流会2015を110名の参加で開催し、活動事例の発表や講演を通じて、交流し学習することができました。JAおかやま中央会青江会長より、協同組合の原点や意義、組織づくりにふれ、今回の交流会が各協同組合の連携強化、発展につながるよう挨拶が行われました。

つづいて来賓挨拶として、県農林水産部房野次長より多様なネットワークづくりや地域経済の発展を担い、地域に根ざした助け合いなどの活動が進んでいることについて挨拶が行われました。同じく来賓として県民生活部くらし安全安心課岡野課長が紹介されました。



各活動事例発表では、最初にJAつやま青壮年部東部支部寺谷和也さんより「『いただきます』の心を広げる活動」。県漁業組合連合会平松義明さんより、「岡山の家産養殖の現状について」。久米郡森林組合甲元孝昌さんから『久米郡森林組合の取り組み「森からの伝言」』。

おかやまコープ 市川洋子さんから、「人と地域とくらしをつなぐ ～地域社会づくりへの参加の取り組み～」をテーマとして、それぞれ報告されました。

真庭市太田市長から「『里山資本主義』真庭の挑戦」をテーマに講演が行われました。豊かな生活や真庭ライフスタイルの提案を行ない、2020年に人口の社会増を目指すこと、地域戦略として中山間の「地域資源」を活かすことを基本に、真庭の目指す「回る経済」と産業振興、木を使い切る真庭創出事業として「CLT活用」による林業再生やバイオマス発電、熱利用促進などを進め成果を出していることの講演が行われました。



真庭太田市長

最後に県生協連近藤会長から、行政や各協同組合、他団体も含めた連携の大切さなどにふれて、閉会挨拶を行い終了しました。講演では、地域戦略が明確にされ地域資源の活用を前提とし、それぞれ



の取り組みが複合的に結びつくことによって、地域づくりの大きな成果を作り出していることなど学ぶことが出来、各団体報告では、豊かな取り組みとともに、今後の課題についても報告され、考えることが出来ました。

## ●国際協同組合同盟（略称：ICA）総会がトルコで開催されました

2015年11月11日、国際協同組合同盟（略称：ICA）総会がトルコのアンタルヤで開催されました。世界81カ国から1,000人を超える参加者が集まり、13日までの3日間、「2020年に向けて あなたの協同組合はどのような姿になっているだろうか（Toward2020 What will your co-operative look like?）」をテーマに、ICA会員組織のメンバーや研究者が、協同組合における「参加」「持続可能性」「アイデンティティ」「法的枠組み」「資本」に関する報告や討議を行います。



【ICA総会で報告する日本生協連 新井ちとせ副会長】

11日の開会式に続き開催された「協同組合における参加」分科会では、日本生協連の新井ちとせ副会長が、日本の生協が組合員の参加を通して実現している宅配・店舗・福祉などの事業や、地域見守り活動など高齢社会で取り組んでいる地域づくりについて報告しました。

全体会では、日本協同組合連絡協議会（略称：JJC）として全国農業協同組合中央会（JA全中）の前田健喜 協同組合連携課長が、日本の協同組合が協力して協同組合の認知を高める活動を続けていることや、ICAの呼びかけに応じて協同組合のPR動画を制作していることを報告しました。

ICA総会は13日に本会議を開催し、協同組合のアイデンティティに関する議論、新役員の選出などが行われます。

# 会員生協の組合員、役員・職員が交流し、学びました。

## ●県連・会員生協役員研修交流会【1月9日 オルガホール】

県連会員生協役員研修交流会を59名の参加で行ないました。くらし安全安心課岡野課長より、生協が県民生活の安定と向上に寄与していること、県行政として高齢者を中心とした振り込み詐欺への対応や悪質業者の取り締まり、消費者教育推進法等にふれて挨拶を頂きました。

「社会の動きと生活協同組合の可能性」～ICAブループリントを読み解く～をテーマとして日本生活協同組合連合会専務理事和田寿昭さんから講演を頂きました。国際協同組合年の成果を踏まえブループリントが策定されたこと、ブループリントと全国生協の2020ビジョンと比較しながら、その特長について話され、特に「運営参加」は世界共通の課題であり、協同組合のもっとも重要な資産でありパワーとなること。何のために生協が存在するのかのミッションを明確にして取り組んでいくことが重要であることを学びました。

続いて「江戸一目図を歩く ～鏝形蕙斎の江戸名所めぐり～」をテーマとして、津山郷土博物館館長尾島治さんから、一目図に描かれている四季や江戸時代のくらしの様子、観光名所、当時の産業など拡大した図をもとに詳しく解説して頂き、大変興味深いお話を聞きました。



## ●組合員活動交流集会を開催【1月30日 オルガホール】

組合員活動交流集会を「少子高齢化社会だれもが安心して暮らせる地域社会をめざして」をテーマに150名の参加で開催しました。オープニングは、岡山医療生協の耕田さんより、「笑いヨガ」を実践して頂き、全員で実際に体を使って行い、体も心もリフレッシュできたと好評でした。

関西国際大学 長谷教授より「少子高齢化社会と地域での暮らし、そして私たちにできること」と題して、講演を行って頂きました。

生活支援サービスの担い手は、地域の住んでいる人たちであり、高齢者も生活支援の担い手として活躍することが期待されていることや地域包括ケアシステムは市民参加の地域づくりであることを説明されました。また、介護予防を徹底に行っている埼玉県和光市は、認定率が低く地域包括のモデルになったことが紹介されました。

取り組みにあたって、支える人たちをどう作っていくのが大事であること、それぞれのスキルを活用し、楽しいこと、自分ができること、まわりを巻き込むことなど、無理をしないで元気な高齢者が担い手となっていくことなど、私たちが出来ることについての方向性を示して頂きました。団体報告として倉敷医療生協から「地域住民・行政・医療生協が協働した健康づくりの取組」県労済生協から「子どもネットワークおかやま」が報告され、学ぶことができました。



全員で「笑いヨガ」を実践



関西国際大学 長谷先生

## ●第3回県生協連 監事研修会【2月5日 オルガ会議室】

第3回目となる監事研修会のテーマは「日常監査」として、おかやまコープ赤坂常勤監事が講師となり実施しました。最初に日常監査と内部統制システムの監査について話があり、その後日常監査の視点について、リスク管理、事業の効率性・有効性・適性性、コンプライアンス体制、情報の保存管理体制、決算関係の適正性確保体制の各項目ごとに、参加者でワークをしながら、整理していきました。内部統制システムをこれから構築していく生協が多く難しい側面がありましたが、日常的に何を監査しないといけないのか学ぶことが出来ました。



## ●他生協研修 被災地福島【10月29日～30日】

岡山県生協連では、被災地福島の復興状況や現在抱えている課題を学ぶことを目的とし、福島県生協連の協力を頂き、福島へ研修に訪問しました。

初日は、福島空港からバスにて移動し、磐越自動車道経由で常磐自動車道を走行。四倉パーキングでは、町の線量が表示される案内板がありました。



除染した土等の仮置き場

道路脇にある空間線量計は、何か所も設置されており、その場所の線量を確認できるようにしています。

車窓から道路脇に多数散在する除染で取り除いた土壌等の仮置場を見ながら浪江町にむけて進みました。現在福島ではこうした仮置場が35万か所もあり、行き場のない状態が続いています。中間貯蔵施設については、地権者の2%しか同意が出来ていなく、最終処分場の見通しも立っていないこと、仮置場から移動するためには10tトラック3,000台使っても3年かかることなど、まだまだ終わらない現実を感じました。

浪江町、双葉町、大熊町と帰還困難地域を進んでいき、この地域では、バスから降りることが出来ず、またバイク等は通行できないエリアとなっています。



原発標語アーチ 双葉町

浪江町は、放射線量が高いレベルにあることから、バリケードなど物理的な防衛措置を実施し、避難している区域で、許可がないと入れない。浪江から国道6号線を南下、双葉町を通過。大熊町を過ぎ、富岡町に入ると、一部を除き居住制限区域となり、バスから降りて町の様子を見ることができます。見慣れた店舗やチェーン店、コンビニなど営業は行われず、住むことの出来ない家の周辺はセイタカアワダチソウが背の高さまで伸びており、解除されてもとても住める状態ではないことが分かります。

### 富岡駅周辺

富岡町のJR富岡駅の跡地周辺では、未だに津波の被害を受けたままの状態が残っており、「時間が止まっている」といわれていた意味があらためて実感する場所でもあり、流された車、壊れた店舗や家が手つかずのまま残っています。



### 福島第二原発について

福島県生協連佐藤専務からは、福島第二原発について、第一原発の過酷事故を発生させたにも係らず、また県から全機廃炉を求められている中、未だに廃炉の決定がされていないこと、再稼働の意志があることなど説明され、福島にとってとても受け入れられない問題となっています。

被災地福島県の現状や課題について、引き続き10万人を超える避難者や2万人余りの方が未だに仮設住宅で不自由な生活を余儀なくされていること、人口減少問題や自殺者が後を絶たないこと、福島の子どもの健康問題や休日の過ごし方、汚染水問題や原発の廃炉にむけ40年もかかること、人手不足も含めて、復興の道のりはまだまだ遠い事について説明されました。



福島第二原発



検査機器

### JA新ふくしまモニタリングセンター及び直売所の見学

安全と安心のために全品目検査を進め年間約3万件の検査を実施。ラベル表示により検査しているのかどうか分かる仕組みを作っており、直売所では検査結果のデータを確認できるようにしています。(ホームページで確認できる) この検査機器は、45台と精密分析器であるゲルマニウム半導体検出機器1台を所有する世界一の規模となっています。

### 米の全量全袋検査場 視察

米の全量全袋検査では、25年度41体、26年度2体のみが基準値を超えた。この検査場で係るコストは約2億とのこと。風評被害に苦しむ福島で、そのことに対する対策は大変な労力と資金が必要となっており、いつまで続けるのか大きな課題となっています。



検査の状況

福島第一原発事故により、現在も「帰還困難地域」「居住制限区域」「避難指示解除準備区域」として制限が行われており、避難されている方の中には長期間仮設住宅での暮らしを強いられ、先の展望が持てない方もおられます。制限区域が解除となったエリアでも生活を再開することは様々な問題もあり厳しい環境となっています。また、風評被害に苦しむ生産者の方たちの苦労や取り組みなど学ぶことができ、風化させることなく、どのような支援が求められているのか考える研修となりました。

# 岡山県消団連、NPO消費者ネットおかやまとともに

## ●第29回岡山県消費者大会【10月27日 オルガホール】

岡山県消費者大会を14団体155名の参加で開催しました。開会にあたり県消団連近藤幸夫代表幹事から、消費者大会が29回を迎えたこと、講演テーマにふれ挨拶がおこなわれました。



柴山先生

『不確実性の時代をよむ』～アベノミクスとTPPは暮らしにどう影響を及ぼすか～をテーマに京都大学大学院人間・環境学研究科准教授 柴山先生に講演を行って頂きました。アメリカ、EU、中国、日本の4地域の景気がどうなのかにより世界経済の動向がきまること、アメリカでは株価などリーマンショック前の水準を上回っているが、あらたなバブルが生まれつつあり、2016年後半から正念場に入ること、欧州の不動産バブルの一方失業率の上昇、中国ではバブル崩壊の可能性があり、これまで例がない規模の不良債権が発生する。日本は、長期デフレの中、収入が減るのに借金が減らない問題。アベノミクスが息切れとなり再びデフレ危機が起こる可能性。いま株価は上昇、実質賃金は下落し景気もゼロ成長になった。日本も富の集中が緩やかに進み、格差社会が再来。また東京一極

集中や大企業の税逃れなどについて指摘されました。

日本経済再生のためには国内経済全体の活性化と実質賃金の上昇にむけた取り組みが必要であり、そのためにも地方経済の再生が重要とお話して頂きました。



講演の後、津山医療生協保健委員宮岡悦子さんにより、ころばん体操の実技が行われ、体を伸ばすなど全員でストレッチを行いました。

団体報告としてJA岡山県女性組織協議会会長筒塩清美さんより『地域の暮らしを守る 私たちの取り組み』をテーマとして、安全安心な農畜産物を供給する立場から食農教育を推進していること、高齢者生活支援、環境保全や次世代をフレッシュミズとして育成している取り組みについて報告されました。

岡山医療生協牛窓支部長眞田美知子さんから『日本のエーゲ海牛窓支部の元気な班活動』をテーマとして、班長会の様子や署名を提出し市議会で国保料引下げの採決が行われたこと、各班で分担して役割を担いサロンを運営しているなど班を中心とした活動について、報告されました。



おかやまコープ美作エリア委員長長生内清恵さんと井笠エリア委員長金高さおりさんから『おかやまコープ たべるといせつ出前授業活動報告』をテーマに、たべる大切の出前事業について、自分たちで作るところからスタートし、ペーパーサートの作成や大型の食育かるた取り、野菜BOXでの野菜あてなど活動するグッズも完成し、たべる大切活動を進めたことについて報告されました。

消費者大会宣言案を倉敷医療生協山口京子さんが朗読し、拍手で確認。最後に県消団連木下幸男代表幹事より、柴山先生の分かりやすい講演であったこと、マイナンバーによる消費者被害が発生していることについて閉会挨拶が行われ終了しました。

参加者からは「分かりやすくとても聞きやすかった。ニュースや新聞では知り得ない教授の生の言葉が魅力的で本当に素晴らしい内容であった。」「いろいろな生協がそれぞれの分野で頑張っていて活動されていると知り刺激されました。ありがとうございました。」「ストレッチがとてもよかった。こりがほぐれた。気分もほぐれた。」など良かった声が多数寄せられました。



## ●消費者被害撲滅キャンペーン【5月24日 シティライトスタジアム前】

消費者被害撲滅キャンペーンが行われ、岡山県消費者団体連絡協議会から1名、消費者ネットおかやまから5名が参加して、全体で18名でキャンペーングッズ5000個をサッカー観戦に来られた方たちに配布し宣伝を行いました。また、選手の直筆での消費者被害に対する注意喚起やO×クイズの実施、ハーフタイムでのPRも含めて行われました。



## ●消費者ネットおかやまが適格消費者団体に認定【12月8日 大臣室にて】



認定式

平成19年の設立以来、不特定多数の消費者の利益を守るための活動や事業者の不当な契約や約款など申入れ活動に取り組み、平成27年9月に消費者庁に対して適格消費者団体としての認定を求めて申請を行い、平成27年12月8日内閣総理大臣より適格消費者団体としての認定を受けることができました。

当日は、河田理事長、児島副理事長、近藤事務局次長の3名と岡山県からも東京事務所田野所長とくらし安全安心課竹井総括参事に出席頂き、河野太郎担当大臣から適格消費者団体としての認定書の交付を受けました。適格消費者団体として全国で13番目、中四国で広島に続いて2番目の認定となります。これからも、消費者被害を未然に防ぎ、公正で健全な消費者市民社会を形成する力となっていきます。生協は法人会員として、また事務局として消費者ネットおかやまの活動を支えています。



河野大臣との懇談

## ●消費者月間 講演会【6月6日 岡山県立図書館 多目的ホール】

84名の参加で消費者月間講演会を開催しました。主催は消費者ネットおかやまと岡山県消団連の共催で岡山県から後援を受け実施しました。県消団連代表幹事近藤幸夫弁護士より、消費者が主権者としての社会めざし、消費者力を高めること、しっかり学習していくことにふれて開会挨拶が行われました。



岡山県消費生活センター田中照之所長より、「健康食品等相談事例や被害状況」について報告頂き、続いて岡山県栄養士会榎尾幸子先生から「あふれる健康食品、サプリメントの実態と私たちの食生活」をテーマに講演して頂きました。

新しい食品表示制度の概要や機能性食品制度が4月よりスタートし事業者責任による届出制での問題点について説明されました。また「健康食品」の虚偽・誇大広告の例や問題となった広告表現・表示例など具体的な内容について説明されました。

健康食品に関する専門家の意見として、①食事制限も運動もせず、楽しく痩せることはない ②もっともらしい体験談に気をつけること ③もっともらしい試験結果にも気をつける ④バランスの良い食事、適度な運動、それが健康増進の大原則であることなど話されました。参加者から「わかりやすく科学的検知に基づいてのお話は、サプリメント依存の人が多い昨今、気をつけておかなければならないことがよく理解できました。」など良かった感想が多数寄せられました。



## ●消費生活サポーター講座を開催

2013年度から始まっているサポーター講座は今年度も消費者ネットおかやまが受託しました。今年度は行政、福祉関係者、専門家などが協力して、高齢者等を支える「地域の見守りネットワーク」を構築することをめざしています。そのためにも、消費者被害等に遭いやすい人の見守りなど、安全安心な消費生活の“支え”になる方を養成することを目的に開催しています。



# 会員生協トピックス

## 岡山大学生協

＜生協キャンペーンの取組み＞



岡山大学生協では毎年11月の約2週間の期間で、日頃岡山大学生協をご利用頂いている組合員さんに「生協キャンペーン」と銘打って購買・食堂各店舗で様々な利用還元セールを行っています。

毎年恒例の「大ふくびき大会ガラガラポン!!」では「東京ディズニーランド旅行券」や「WiiU」などの景品を目当てに毎日多数の参加者の行列ができました。また健康企画の一環として「永久健康祭



(とわけん)」を開催し、「アルコールパッチテスト」「血圧測定」「疲労度チェック」「体重測定」「肌年齢チェック」「禁煙相談」の各ブースで組合員からの健康相談を受けました。

## おかやまコープ

＜行政との連携を進めています＞

おかやまコープでは、安心してらせる地域づくりをめざし、行政や地域の諸団体との連携を図るため、行政訪問などを積極的に行い、県や市町村など各自治体との協定締結を進めています。

2015年度12月までに、岡山県の28自治体中、23自治体(岡山県と22市



井原市との協定締結(平田理事長と瀧本井原市長)

町村)と「包括連携協定」や「地域見守り協定」、「災害時物資協定」の協定を締結することができ、協議会への参加などにもつながりました。

《協定締結の状況》

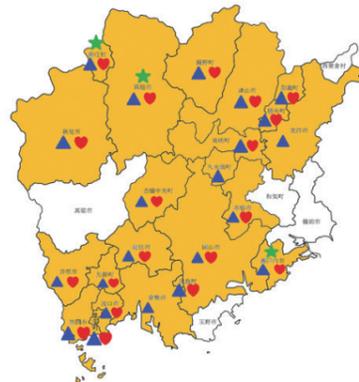
※2015年12月末現在

★包括連携協定

▲災害時物資協定

▲見守り活動協定

※岡山県とも災害時物資協定を締結しています



## ＜岡山医療生協と協同組合間連携～コープ大野辻クリニック開設調印式～＞

「食と健康の地域拠点づくり」に向けた協同組合間連携を深める取り組みとして、コープ大野辻2階に岡山医療生活協同組合の診療所が開設されることとなり、11月24日(火)にオルガ本部で「コープ大野辻賃貸借契約書調印式」が行なわれました。購買生協の店舗に医療生協の診療所が開設されるのは「中国四国地方初」。店舗の2階敷地内に診療所を開設することにより、「食」と「医療」「健康」の面で利便性を高め、地域に貢献することを目指します。診療所名の開業は16年春の予定です。

岡山医療生協木村理事長とおかやまコープ平田理事長



## 岡山医療生協

＜「すこしお料理コンテスト」開催＞

11月29日(日)岡山ふれあいセンターにおいて岡山医療生協はじめての取り組みとなる「すこしお健康料理コンテスト」を開催しました。医療生協と県栄養士会、農民連婦人部の共催の取り組みでした。

12グループ37人が自慢の腕をふるい、グランプリ「すこしお大賞」には山陽支部西中班の「おにぎり2種、ローズマリー入り鱈フライ、温野菜サラダ」が選ばれました。

審査員とは別にみんなで試食し、作り方の交流も広がりました。「すこしお」は今年度の岡山医療生協のテーマです。いろいろな催しを通じて健康習慣を広げていきます。



## 倉敷医療生協

＜水島協同病院で大規模災害訓練＞

10月31日(土)午後、水島協同病院で初めての大規模災害訓練を行いました。参加者は、職員・組合員を含め160人を超え関心の高さを伺わせました。



訓練は、震度6の地震により多くの傷病者が搬送されたと想定し、直ちに災害対策本部、災害医療体制を設置し、負傷者をトリアージポスト(負傷者の重症度・緊急度判断する場所)で受け入れをおこないました。

しかし、度重なる事前準備にもかかわらず、訓練を実施したことで実際に起こりうるいくつかの課題も明らかになりました。今回の訓練では「地域で災害に強い病院づくり」をめざす貴重な経験となりました。



## 岡山県労災生協

＜子ども防災体験プログラム&介護施設の清掃活動＞

2015年度(2015年6月1日～2015年11月30日)、子ども防災ネットワークおかやまによる防災体験プログラムを以下のとおり実施しました。(11カ所:参加園児数402名)

月	日	実施園名(参加園児数)	実施団体
6	4	鹿田保育園(40名)	岡山市子どもセンター
6	13	倉敷環境フェスティバル(20名)	一般社団法人チカク
6	19	北小学校(80名)	一般社団法人チカク
7	25	野村子ども会 防災キャンプ(50名)	一般社団法人チカク
7	30	津山市社会福祉協議会(13名)	一般社団法人チカク
8	24	操明つくしクラブ(27名)	岡山市子どもセンター
8	27	岡山医療生協(53名)	一般社団法人チカク
9	8	浮田幼稚園(12名)	一般社団法人チカク
9	9	平島幼稚園(23名)	一般社団法人チカク
9	16	南方保育園(55名)	岡山市子どもセンター
11	2	遍照保育園(29名)	一般社団法人チカク

また、例年は年末に実施していましたが介護施設の清掃活動を11月に前倒し実施しました。

2015年11月11日(水)12日(木)の2日間で役職員により、岡山市南区の介護施設を清掃しました。



## 津山医療生協

＜「マイナンバー学習会」を開催＞

津山医療生協では毎年12月の始めに健康集会を行い健康づくりを学んでいます。今年は「健康」でなく要望の多かった「マイナンバー」がテーマでした。

会場も一杯で講師の方も解りやすく話していただきました。質疑では「個人カードは必要か?」、「詐欺に掛からないようにするには?」など、制度や安全性の質問が多く出されました。



# 会員生協トピックス

## グリーンコープ生協おかやま <地域に根ざした組合員活動>

2015年も地区の組合員が主体となった様々な催しや取り組みを行いました。「生命(いのち)・自然・暮らし」を守ることを何より大切にしているグリーンコープでは、組合員自らがその活動に参加しています。組合員が主体となり自分たちで考え、楽しく企画をし、参加することで活動の幅も広がり、たくさんの方たちと出会うことができました。



今後より地域に根ざした組合員活動を充実させていきたいと思っています。

今後より地域に根ざした組合員活動を充実させていきたいと思っています。



## 岡山県学校生協 <健康をテーマにエンジョイライフセミナーを開催しました>

開催日：2015年11月21日(土) 9:30～  
会場：おかやま西川原プラザ2F



2015年3月末に勇退され学校生協の継続組合員になられた方を対象に開催いたしました。

今回のセミナーは、保健師の方を講師にお招きし「健診結果を無駄にしない! ~今こそ自分の健康を見つめ直そう~」と題してご講演をいただきました。

参加者からは「分かりやすくとても聞きやすかった。」「消費者被害の実態など具体的な事例が聞けて良かった。」など好評でした。



## 三井造船生協 <第9回生協ふれあい祭り>

10月25日(日)、玉野レクセセンターミーティングホールと本部店頭にて「第9回生協ふれあい祭り」が開催され、たくさんの組合員がご来場しました。

ステージイベントでは、玉認定こども園児による「鼓隊演奏」に始まり、レクレッズダンサーズ&玉野商業高校ダンス部による「ヒップホップダンス」、操南ウインズによる「吹奏楽演奏」、東児ライダーショー、玉野市消防本部による「AED講習」や「いきいき百歳体操」、アケタフラスタジオのみなさんによる「フラダンス」、Niico★ベリーダンス教室のみなさんによる「ベリーダンス」などが行われました。また今回は屋外で玉野警察署及び玉野市消防本部から、白バイや消防車・救急車の出動をいただき、ちびっこや多くの組合員、地域の皆様に楽しんでいただきました。



玉認定こども園 鼓隊演奏



いきいき百歳体操

# The Member introduction 2016

## 会員紹介 (設立期順)

### 岡山県学校生活協同組合

代表者名 理事長 梶原 洋一  
組合員数 17,929人  
出資金 161,510千円  
供給高 842,180千円  
活動エリア 岡山県下、保・幼・小・中・高校・大学職域(県下全域)



設立登記年月日 1949年8月22日  
役員数 (常勤) 2人 (非常勤) 16人 (監事) 3人  
職員数 (正規) 7人 (内1人出向) (パート) 1人  
概略

岡山県学校生活協同組合は、県下公私立の保育園・幼稚園・小学校・中学校・高等学校等・大学、教育庁関係職場に勤務される方とその職場を退職された教職員を対象とした職域生協で、組合員より拠出された出資金により運営される事業体です。

学校生協は、1949年に発足以来、組合員の皆さまとともに幾多の困難を乗り越えながら、今日まで発展してきました。今、私たちを取り巻く状況は、行先不透明で不安をかかえたまま推移しています。こういう時だからこそ「平和や暮らしを守る生協運動」の果たす役割がますます大切になってきています。今後とも、学校生協事業を魅力あるものに変革しながら、生協本来の活動に邁進し、組合員の福利厚生を担う事業体として更に活動を続けてまいります。

### 三井造船生活協同組合

代表者名 理事長 武部 吉治  
組合員数 25,671人 (2015年10月末日現在)  
出資金 548,448千円 (2015年10月末日現在)  
供給高 4,388,394千円 (2014年度)  
活動エリア 玉野市、岡山市、倉敷市



設立登記年月日 1950年11月  
職員数 (正規) 108人 (2014年度末) (定時) 65人 (2014年度末)

概略 創立以来「人と人のつながりを大切に、健康で心豊かなくらしの実現を目指します」の理念のもと、現在では職域ばかりでなく、地域組合員のくらしを支える共同相互組織として、店舗事業(玉野市内に5店舗)、共同購入、葬祭事業、福祉介護事業、旅行業、共済事業など幅広く展開しています。

また、組合員活動では1956年に結成した家庭会(地域組合員組織)を中心として環境問題や福祉活動その他安全な商品の提供にも積極的に取り組んでいます。中でも家庭会チャリティーバザーは第1回目の1979年から連続37年間、毎年その収益金を玉野市の社会福祉事業へ寄贈(累計で1,760万円)など、まさに地域社会にしっかりと根ざした活動となっています。

これら、事業及び組合員活動の歴史を礎に、組合員による組合員のための生協、安心・安全をキーワードとした生協、また、人と環境にやさしい地域社会づくりに貢献できる生協をめざします。

くらしの中に、そして地域の中に生協がある。  
~こういう生協をめざして~

### 岡山医療生活協同組合

代表者名 理事長 木村 高清  
組合員数 65,504人 (2015年11月末現在)  
出資金 1,856,798千円 (2015年11月末現在)  
供給高 7,752,403千円 (2014年度)  
活動エリア 岡山県下一円



設立登記年月日 1952年10月21日  
役員数 (常勤) 8人 (非常勤) 24人 (監事) 5人  
職員数 (正規) 687人 (定時) 314人

岡山医療生協は、いのちと心大切にします。1952年に設立された当組合は、現在2つの病院、4つの診療所、11の介護事業所、健診センターで構成され、健診から急性期医療~在宅まで、地域の皆さまの様々な要望にお応えしています。

当組合では、設立当初より「いのちの平等」を掲げ、人権を大切に医療・介護をすすめています。そのため、入院時も部屋代(室料差額)を頂かないことや、2012年1月には2つの病院で無料低額診療事業(患者さんの負担能力に応じて、窓口負担分を無料又は低額にする制度)を開始し、拡大する貧困への対応を強めています。

また、地域では安全・安心のまちづくりをめざし、健康づくりの他に安否確認を含む機関紙の手配り・配食弁当・誕生日訪問・サロン、子育て支援では岡山協立保育園等と連携し、赤ちゃんマッサージをはじめ子どもの成長に合わせた病院・診療所探検隊、夏休み宿題応援隊、高校生1日医療体験、若いお母さんを対象とした「ふれあい快食会」、母親学校など、世代を超えた多彩な企画に取り組んでいます。

これからも地域の様々な団体、岡山中央福祉会や他の医療機関・施設等との連携をすすめる、医療・介護・福祉と地域の組合員活動が一体となり、より良い地域社会の実現をめざしたいと思います。

### 倉敷医療生活協同組合

代表者名 代表理事 谷 謙一  
組合員数 65,874人  
出資金 1,701,833千円  
供給高 101.4億円  
活動エリア 岡山県全域



設立登記年月日 1955年2月28日  
役員数 (常勤) 11人 (非常勤) 17人 (監事) 5人  
職員数 (常勤) 812人 (定時) 465人

概略 倉敷医療生活協同組合は、センター病院の水島協同病院を中心に、全体で3病院、4医科診療所、7歯科診療所、3訪問看護ステーション、1ヘルパーステーションに加え、老健施設、倉敷市の高齢者支援センター、助産院など多彩な機能を持った30近くの事業所を有して、医療・介護・福祉と健康づくりのネットワークを展開しています。

2013年(創立60周年)、組合は将来を見据え、医療の質の更なる向上や災害にも強い安全・安心な事業づくりを提起し、2014年に、玉島協同病院の高台への移転新築(12月)、水島協同病院非常用電気設備の増設・高架工事を完成させました。また、組合の設立趣旨、協同組合の原点や「組合理念」の「私たちの思い」を一言で表現した新しい標語(motto)を決定しました。

一人ひとりを大切にする社会実現のために  
Each for All and All for Each

2015年には阿新歯科診療所を移転新築(2月)しました。今年は、新しいコープリハビリテーション病院・老健あかねが完成します。他の医療機関、介護事業所、福祉施設等とも連携を強化し、いのちのネットワークをより一層充実させます。

また、健康で明るいまちづくりをすすめるという医療生協の社会的役割が果たせる組織づくりの課題などにとりくみます。行政や地域の諸団体と協力し、組合員、地域住民の切実な思いに寄り添い、「人が人として大切にされる社会」をめざします。

会員紹介 (設立期順)

生活協同組合おかやまコープ

代表者名 理事長 平田 昌三  
 組合員数 336,699 世帯  
 (2015年11月末日現在)  
 出資金 105.5 億円  
 (2015年11月末日現在)  
 総事業高 386.4 億円  
 (2014年4月1日~2015年3月31日)  
 活動エリア 岡山県一円 (定款エリア)  
 設立登記年月日 1956年6月13日



役員数 (常勤理事) 3人 (非常勤) 15人  
 (常勤監事) 1人 (監事) 4人  
 職員数 (正規) 420人 (定時) 1,657人 (2015年11月末日現在)

**概略**  
 おかやまコープは、岡山県内の4割を超える33万世帯が加入する県最大の消費者組織です。宅配と店舗での食品や日用品などを供給する購買事業を中心に、COOP 共済(たすけあい)などの共済事業、訪問介護やデイサービスなどの福祉事業を行っています。品質マネジメントシステムの国際規格 ISO9001 を取得しています。また、商品トレサビリティの取り組みや「食の安全総合政策」の策定など、安全・安心な商品の提供や産直事業、地産地消の取り組みをすすめ、循環型農業を応援しています。商品学習や産地交流などの商品活動やたべる・たいせつ活動、省エネ活動やリサイクル活動、マイバッグ運動などの環境の取り組み、核兵器と戦争のない世界をめざしての平和活動、ユニセフや AMDA への支援をすすめる国際協力支援活動、「子育てひろば」などの子育て応援活動やお互いさまの気持ちで支えあう「は〜とふるネット」の活動など、多彩な組合員活動にも取り組んでいます。また、安心してらせる地域づくりを地域の皆さんとつながって一緒に幅広くすすめていこうと、くらしの困りごとの解決にお役立ちする「生活支援サービス」や里山・里海づくりの取り組み、自治体との見守り協定や災害時物資協定の締結などをすすめています。子会社のコープP&Sでは、保険、旅行、飲食、フィットネスや葬祭などの斡旋事業を行っています。また、子会社のコープファームおかやま、ハートコープおかやまでは、障がい者を雇用したトマト生産をすすめています。

ヤンマー農機製造岡山地区生活協同組合

代表者名 代表理事 世一 寛行  
 組合員数 373人  
 出資金 373千円  
 供給高 14,815千円  
 活動エリア 職域(工場内)  
 設立登記年月日 1965年1月25日



役員数 (常勤) 0人 (非常勤) 8人  
 職員数 (正規) 1人 (定時) 0人

**概略**  
 当生協は新岡山港に程近い、YANMAR 農業機械の総合機械メーカーとして2013年4月に新たにスタートしたヤンマー農機製造内で活動しております。組合員数約370名と限られた範囲での活動ですが、組合員のニーズを反映した、きめ細かい対応をめざして活動が出来るよう努力をしていきたいと思っています。一年間を通じての地域の公園や遊歩道のクリーン作戦も回を重ね、これからも地域とのつながりを大切にしていきたいと思っています。

岡山県労働者共済生活協同組合

代表者名 理事長 石田 一  
 組合員数 17万0975人  
 出資金 12億0868万2800円  
 契約件数 8万0171件 (46万8591件)  
 契約口数 36万2583口 (5154万9593口)  
 給付件数 3,049件 (2万6672件)  
 給付金総額 1748万9000円 (38億8128万5745円)  
 活動エリア 岡山県一円  
 設立登記年月日 1961年4月1日



役員数 (常勤) 2人 (非常勤) 23人  
 職員数 1人 (25人) ※ ( )内は連合会実績

**概略**  
 岡山県労働者共済生活協同組合(全労済岡山県本部)は、営利を目的としない保障の生協として、岡山県と厚生労働省の認可を得て事業運営を行っています。当生協は、「みんなでたすけあい、豊かで安心できる社会づくり」を理念とし、組合員の皆さまの「安心とゆとりある暮らし」をめざした活動を行っています。これからも、「組合員の全労済」「正直な全労済」「努力の全労済」を信条とし、組合員のくらしを何よりも大切とし、組合員や地域社会からの信頼に応え、社会の発展のために行動し、たすけあいの心を大切にするにより、全労済に関わるすべての人の満足に向け努力し続けます。

津山医療生活協同組合

代表者名 理事長 井ノ上義明  
 組合員数 5,378人  
 出資金 81,980千円  
 供給高 349,521千円  
 活動エリア 定款区域 (主には津山市と津山市周辺町村)  
 設立登記年月日 1980年8月12日



役員数 (常勤) 1人 (非常勤) 17人 (監事) 4人  
 職員数 (正規) 24人 (定時) 27人

**概略**  
 津山医療生協は、患者・利用者の権利を尊重し、親切でやさしい医療・介護をこころがけ、地域の人達の命と健康を守るために全力を尽くしています。高齢化社会が進み、医療や介護、暮らしをめぐる生活の環境が変わる中で、診療所・訪問看護ステーション・ケアプランセンター・ヘルパーステーション・デイサービスなど保健・医療・福祉(介護)のネットワークをひろげ、365日安心・安全の医療・介護サービスを行っています。また組合員との協同による地域での健康づくりを進めています。

会員紹介 (設立期順)

岡山大学生生活協同組合

代表者名 理事長 田口 勇仁  
 組合員数 15,244人  
 出資金 266,730千円  
 供給高 2,032,620千円  
 活動エリア 岡山大学津島・鹿田キャンパス  
 設立登記年月日 1995年2月20日



役員数 (常勤) 2人 (非常勤) 28人 (監事) 4人  
 職員数 (正規) 20人 (定時) 180人

**概略**  
 岡山大学生生活協同組合は岡山大学の学生・教職員の手によって1994年12月に設立されました。大学生協は、大学の福利厚生事業の担い手として、学生・教職員組合員に良い品をより安く、より便利に提供するとともに、教育・研究の場としての大学にふさわしい様々な活動を行っています。岡山大学では、津島キャンパスのピーチユニオン・マスカットユニオン・ピオーネユニオン及び鹿田キャンパス医学部記念会館という大学の福利厚生施設の中で、構成員のニーズにもとづいて、購買・書籍事業、旅行事業、食堂事業、共済事業、住生活支援事業など幅広い事業に取り組んでいます。

グリーンコープ生活協同組合おかやま

代表者名 理事長 黒田 明穂  
 組合員数 6,048人  
 (2015年3月20日現在)  
 出資金 217,819千円  
 (2014年度末)  
 供給高 844,348千円  
 (2014年度)



活動エリア 岡山市・倉敷市・赤磐市・瀬戸内市・総社市及びその周辺地域(共同購入と個配事業)  
 設立登記年月日 2003年8月13日  
 役員数 (常勤) 2人 (非常勤) 16人 (監事) 3人  
 職員数 (職員) 15人 (定時職員) 22人

**概略**  
 グリーンコープ生協おかやまは、安心・安全な食べものを求め、環境問題や地域福祉、平和の取り組みなどに関心ある消費者が集まり、2003年8月に設立しました。無・減農薬で栽培された青果・農産物や遺伝子組み換えされていない飼料で育てた畜産物、なるべく添加物を使わずにつくった加工品など「いのちを育む食べもの」を、組合員に届けています。また、生産者やお取引先メーカーとの「顔の見える関係」を大切にすることで、組合員世帯の食の安全を守るとともに、国内の農畜産業を守っていく取り組みとして位置づけを進めています。今の時代、経済と社会不安が大きくなっていく中で、一番大切な事は「信頼」です。組合員と地域の人々との「助け合っていく。支えあっていく。」をつくっていくことができる生協を目指して参ります。

県生協連会員生協名簿

会員生協名	住所	電話・FAX
岡山県学校生活協同組合	〒703-8258 岡山市中区西川原 255	TEL 086-272-4033 FAX 086-272-4034
三井造船生活協同組合	〒706-8501 玉野市玉二丁目 5-5	TEL 0863-31-5566 FAX 0863-31-7459
岡山医療生活協同組合	〒703-8288 岡山市中区赤坂本町 2-20	TEL 086-271-0943 FAX 086-271-7854
倉敷医療生活協同組合	〒712-8025 倉敷市水島南春日町 13-1	TEL 086-444-4321 FAX 086-448-4150
生活協同組合おかやまコープ	〒700-0026 岡山市北区奉還町 1-7-7	TEL 086-256-2511 FAX 086-256-2585
岡山県労働者共済生活協同組合	〒700-0024 岡山市北区駅元町 6-26	TEL 086-254-2155 FAX 086-254-8116
ヤンマー農機製造岡山地区生活協同組合	〒702-8004 岡山市中区江並 428	TEL 086-276-8111 FAX 086-276-8152
津山医療生活協同組合	〒708-0872 津山市平福 546-1	TEL 0868-28-2057 FAX 0868-28-3835
岡山大学生生活協同組合	〒700-8530 岡山市北区津島中 2-1-1	TEL 086-251-7207 FAX 086-256-0445
グリーンコープ生活協同組合おかやま	〒700-0973 岡山市北区中野 311-113	TEL 086-805-2566 FAX 086-805-2569



# 岡山県生活協同組合連合会紹介



## 概 況

1959年9月に創立総会を開催して設立された岡山県生協連は、当初17生協の参加でスタートしました。現在、10の会員生協に、延べ70万余世帯の組合員が加入する県内最大の消費者組織となっています。購買生協は地域・職域の6生協、医療生協は3生協、それに労済生協とで構成されています。生協は、県民の生活の安定と生活文化の向上に努めており、組合員のくらしと地域社会にとってなくてはならない存在となっています。

代表者名 会長理事 近藤 清志

会員数 10生協

会員総組合員数 701,018人 (2015.3.31)

会員総出資金 1,634,161万円 (2015.3.31)

会員総事業高 7,252,452万円 (2015.3.31)

設立登記年月日 1960年3月2日

役員数 (常勤理事) 1人

(理事) 13人

(監事) 3人

職員数 (定時) 1人

## 役員構成

会長理事	近藤 清志 (常勤)
副会長理事	平田 昌三 (生活協同組合おかやまコープ理事長)
副会長理事	武部 吉治 (三井造船生活協同組合理事長)
副会長理事	谷 謙一 (倉敷医療生活協同組合専務理事)
理事	井ノ上義明 (津山医療生活協同組合理事長)
理事	大山 健二 (岡山大学生協同組合専務理事)
理事	加藤 孝昭 (岡山県学校生活協同組合専務理事)
理事	木村 高清 (岡山医療生活協同組合理事長)
理事	佐々木和宏 (グリーンコープ生活協同組合おかやま専務理事)
理事	馬崎 健一 (岡山県労働者共済生活協同組合専務理事)
理事	和泉かよ子 (倉敷医療生活協同組合理事)
理事	藤原キヌ子 (三井造船生活協同組合理事)
理事	宮本 紀子 (生活協同組合おかやまコープ理事)
監事	青井 昭洋 (岡山県労働者共済生活協同組合総務部長)
監事	岡本 秀雄 (生活協同組合おかやまコープ常勤監事)
監事	河本志津恵 (岡山医療生活協同組合常任理事)
顧問	安場 靖 (前会長理事)

岡山県生活協同組合連合会 岡山市北区奉還町1-7-7 オルガ5階

Tel 086-230-1315 Fax 086-230-1317 ホームページ <http://okayama.kenren-coop.jp/>